



担当記者

報道部
池田 美香

6月に静岡県で開かれた第73回全国乾椎茸品評会で県勢は27大会連続、通算59回目の団体優勝を果たした。日本一に輝き続ける県産シイタケの魅力はどのようなところなのか。

シイタケ王国大分

ぶんぶん 全国乾椎茸品評会って何？

記者 全国から寄せられた乾シイタケを審査する大会で、県内からは県大会で良い成績だった62点が出品されたよ。全国で最も多く、2番目は熊本県が55点、岩手県が50点を出していたね。

ぶんぶん どんなところが評価ポイントになるの？

記者 色や形、大きさがそろっているかなどを審査員が見定めるよ。5部門ある。

ぶんぶん うち、「どんこ」であれば▽肉厚がかさが全開していない▽表面がなめらかでしわが少ない▽つやがあるものーが高い評価を受けるよ。

ぶんぶん なぜ県勢が団体優勝を続けられるの？

記者 県内の乾シイタケの生産量は日本一の544ト(2024年)で、全国生産量(1570ト)の35%をつくっている「シイタケ王国」なんだ。生産者は県内に2482個人・団体

生産者多くハイレベル

技術継承、学ぶ環境充実

もいて全国(5760個人・団体)の43%を占めるよ。多くの人が生産し、レベルの高い県内の品評会で厳選された品が全国大会に出品できるのは強みの一つ

だよね。

ぶんぶん 他には？

記者 県内は温暖な気候で年間降水量も比較的多く、シイタケが育つのに適した気候なんだ。栽培に使



(左から時計回りに) 県乾椎茸品評会で色や形を見る審査員、乾シイタケのパターソテー、ほだ木に生えたシイタケ

う広葉樹、特にクヌギが豊富にあることも有利だね。ぶんぶん 栽培はいつ頃から始まったの？

記者 諸説あるけど、江戸時代に宇目(佐伯市)で炭焼きをしていた源兵衛さんが人工栽培を始めたといわれているよ。源兵衛さんの弟子が全国に散らばり栽培が広まっていったみたい。当時は、木に傷を付けてシイタケの胞子が自然に付着するのを待って育てていたそうだよ。

ぶんぶん 今の栽培方法になったのは？

記者 1942年にシイタケ菌を培養した木片を木に植え付ける方法が開発され、一気に生産量が増加したよ。

ぶんぶん 長い歴史があるんだね。

記者 先輩たちから受け継いできた技術も県内生産者の大きな力となっている

よ。毎年変化する自然が相手のので、シイタケを育てるクヌギを切る時期やシイタケ菌を植えてからの管理の仕方など、天気や気温を見ながらする作業には長年蓄積された経験が生かされているよ。

ぶんぶん 栽培の勉強や努力を続けているんだね。

記者 生産者がグループをつくって情報共有をしたり、地域で中核的に取り組んでいる人がスキルアップできる「大分しいたけ源兵衛塾」が開かれたりと、学べる環境も充実しているよっだしね。

ぶんぶん 課題はあるのかな？

記者 近年は、中国からの輸入品の影響や家庭での消費量低下などで生産量は減少傾向にあり、20年前に比べて6割も減っているんだ。

ぶんぶん 県の特産品を守るためにはどうしたらいいの？

記者 県内でも高齢化による生産者の減少が進んでいるんだ。新たな担い手が増えるよう、私たちがたくさん食べることと応援していきたいね。



〔問①〕 次の文章の（ ）のなかに、あてはまる数字を記事のなかから見つけて書いてください。

大分県の2024年の乾シイタケの生産量は（ ）トンで、日本一です。また、大分県の生産者数は全国の（ ）パーセントを占めています。

〔問②〕 記事のなかに、「源兵衛さん」という人が登場しますが、どんなことをしたといわれている人でしょうか。

〔問③〕 シイタケの生産量が減っている原因は何でしょうか。記事を読んで書いてください。

〔問④〕 記事では生産者の減少が問題視されています。このままでは、「シイタケ王国」である大分はどうなっていくと思いますか。